

様式4

学校番号 (中 1 5) 学校名 (光が丘第一中学校) 教科名 (音 楽)

指 導 技 術		観 点 別 の 授 業 改 善 の 視 点			
教師の指導 (授業規律・指導技術・発問・板書・個別指導・ノート指導等)		関心・意欲・態度を向上させるための手だて	音楽表現の創意工夫を向上させるための手だて	表現の技能を向上させるための手だて	鑑賞の能力を向上させるための手だて
導入	(授業規律) 始業のチャイムと同時に出席簿に記入し授業が始められるように、教室移動を促し、学習規律を確立する。 (教材提示) 本時の学習内容のめあてやねらいを説明し、学習の動機付けをして課題意識を持たせる。	・生徒が前時の学習内容を確認した上で、本時の学習の目的を意識し、興味をもてるように学習内容を説明する。	・前時の練習成果を確認し、曲想を考えて、楽曲にふさわしい音楽表現を感じ取り、表現を工夫するよう、本時のめあてやねらいを意識させ、次のステップへの見通しをもたせるようにする。	・前時の課題確認カードの活用や録音したテープを聴くことにより、課題意識をもたせる。	・教師の説明・助言をよく聴き取り、課題意識をもたせる。
展開	(実技指導) 全員による発声練習後、模範のCD鑑賞や教師による実演により、ポイントを説明をし、確認させる。 (個別指導) 課題の部分を全員が習得できるように、パート別練習の時に、リズムや音程を個々に確認し、苦手意識をなくさせ、意欲・技能の向上を図る。理解・技術の習得が早い生徒には、発展的な課題を出すことによって技能を高めたり、苦手な生徒に助言することで復習ができるようにする。	・生徒が目的意識をもって自主的・積極的に活動できるように意欲をもたせるようにする。 ・歌唱の基礎的な奏法や響き合うハーモニーに関心を持ち、意欲的に取り組み、技能を体得させる。 ・生徒の技能の良さを教師が認め、自分の技能を発表しやすくする。	・模範演奏や互いの歌声に触れ、歌唱表現の豊かさや美しさを感じ取り、自らの歌唱をより豊かな表現へと高めるようにさせる。 ・歌唱の基礎的な発声法・正しい音程やリズム・フレーズのまとめ・強弱等の働きを考え、反復練習して曲にふさわしい表現を工夫する力を向上させる。 ・練習カードの活用により、目的意識の向上を図る。	・楽譜の音程やリズムを正しく理解し、課題をこなせるように、階名唱やリズム唱を通して、読譜力を高め、技能の向上を図る。 ・個々の生徒に応じた歌唱指導により、技能を定着させる。 ・理解が早く、技能が優れている生徒には、発展的な課題を追加したり、他の生徒に助言できるように指導する。	・響き合うハーモニーの美しさを感じながら聴き取ったり、互いの歌唱発表で、それぞれの工夫したことを聴き取り、さらにそれを味わうことにより、聴覚的な能力の育成を図る。
まとめ	(評価) まとめとして、全員を通して合唱し、本時の学習の理解度を確認し、自己評価や相互評価を活用して次時の目標・課題を設定する。 (授業構成) 本時の感想を述べ、ポイントを確認し、次時の授業の予告をする。	・簡単な自己評価や相互評価を取り入れ、今日の学習を振り返るようにする。 ・課題をこなした達成感を体得することで、自己評価力を向上させる。	・歌唱に関わる表現に工夫した点などを振り返り、よりよい表現の工夫ができるように考えさせる。	・課題確認カードの活用により、課題の技能を習得できたかを確認する。 ・課題とする技能が十分に習得できなかった生徒には、次時の授業での課題意識を強くもたせる。	・楽曲にふさわしい正しい発声法やリズム・強弱・ハーモニー等の構成要素を聴き取り、自分の演奏に生かせるよう聴覚的能力を育成する。